

解 答 速 報

東海大学医学部(2日目) 英語

2025年 2月 3日実施

	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11	問 12
	エ	エ	ウ	ウ	ウ	ウ	イ	イ	ア	ア	エ	ア
1	問 13											
	1	2	3	4								
	F	F	T	T								
2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	ウ	エ	ウ	ア	イ	イ	エ	イ	エ	ア		
3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	ア	エ	ウ	イ	ア	ウ	エ	ウ	イ	ウ		
4	1	2	3	4	5	6	7	8				
	イ	ア	ア	イ	ア	イ	ウ	ウ				
5	問 1	問 2	問 3	問 4	6	(1)	(2)	(3)	(4)			
	ア	ウ	ウ	ウ		ア	イ	ア	エ			
7	<p>(1) 火山の噴火によって大気中に送り込まれた温室効果ガスの量は膨大なものだったので、海水が蒸発し始めたとき、それにより陸地には大洪水が起こった。</p>											
	<p>(2) 現代の両生類と哺乳動物の祖先たちは、他の生物よりも適応力が高かったので、降雨が落ち着いた後、他の適応力の低い生物種にとって代わる形で繁栄した。 (別解) 現代の両生類と哺乳動物の祖先たちは、適応できるほうであったので、雨が弱まった後、他の適応力のそれほどない生物種の犠牲のもと繁栄した。</p>											
8	<p>(1) This plant has antiseptic, anti-inflammatory and sedative properties and has been used as a traditional medicine by the island's indigenous people. (別解) This plant has antibacterial, inflammation-reducing, and pain-relieving effects, and so it is employed in traditional healing by the native people on the island.</p>											
	<p>(2) Cases of animals' oral intake of medicinal herbs have long been known, but this was the first report of plants being used to heal trauma. (別解) While it has been known for a long time that animals ingest healing herbs orally, this was the first reported case where plants were used to treat external wounds.</p>											

*大問3の問5については、当初ウを正解としていましたが、正解はアとなります。失礼いたしました。

1

問1 「第1段落によれば、_____」

正解は、エ「宇宙のどこかに他の何かが存在しているのだろうかという思索は、新しいものではない」。同段落第1文が根拠となる。その1文の意味は「古代より人類は夜空に目を向け、肉眼で見える約2000個の星々を眺めながら、他に誰かいないかと考えてきた」である。

問2 「第1段落の目的は_____ことである」

正解は、エ「フェルミが宇宙に他の生命体が存在するのではないかと考えた理由を説明する」。第1段落の目的は何かといえ、フェルミのパラドックスとして知られる謎、矛盾を主題として提示することである。しかしこれに該当する選択肢が見当たらないので、消去法で正解を絞り込むことになるだろう。ア「天の川銀河に存在する恒星の起源について説明する」、イ「他の生命体が存在する可能性が極めて低い理由を明らかにする」、ウ「原子力と恒星からの放射の類似点を概説する」のいずれも本文の目的には該当しない。アについては、そもそも恒星の起源という話題すら述べられておらず、ウについてもそのような類似点に関する言及はない。イについて、もしこれが正しいとすると、他の生命体がない理由が第1段落に述べられていなければならないが、そのような踏み込んだ内容が第1段落から述べられることはほぼ考えられないし、実際に述べられていない。エが正しいと判断する根拠としては、同段落最終文で、「エンリコ・フェルミが1950年に、何気ない昼食の席で物理学者仲間に、宇宙の他のみんなはどこにいるのかと尋ねたとき、彼は異星人の知性について、そしてなぜ私たちは宇宙における孤独な存在に見えるのかを尋ねていたのだ」と述べられていることが挙げられる。この1文はフェルミが語ったとされる言葉の意味を説明しているので、エの内容に若干関わりを感じることができる。

問3 「第2段落によれば、天文学者たちが、惑星に生命が存在するための最も重要な条件と考えているものは何か」

正解は、ウ「液体の水があるかどうか」。同段落第3文が根拠となる。その1文の意味は「これは、恒星から惑星までの理想的な距離であり、生命にとって最も必要な条件であると科学者たちが信じている液体の水が存在するためには、惑星は暑すぎず寒すぎない状態である必要がある」である。

問4 「第2段落において、(A) tenable の意味は_____に最も近い」

正解は、ウ「理にかなっている」。同段落の最終2文を参照する。それらのおよその意味は「アメリカ航空宇宙局(NASA)によれば、ハビタブルゾーンに岩石惑星を持つ惑星系は、天の川銀河の中に3億個存在する可能性があるという。したがって、生命が存在する惑星が宇宙全体に多数存在するはずだと主張することは、十分〜だと思われる」である。この文脈から予想できるのは、「理にかなった、推測可能な」といった意味である。実際に、tenable の意味は「擁護できる、支持できる、論証できる」といったものである。

問5 「第3段落の主な考えは_____ことである」

正解は、ウ「生命の存在はその知性を保証しない」。第3段落第1文が根拠となる。その1文の意味は「私たちの惑星の外に生命体が存在するとしても、そのことはそのような生命体に知性があるという保証にはならない」である。

問6 「第4段落の空所[1]に置き換えるのに最もよいものは次のうちのどれか」

正解は、ウ「一方で」。同段落最終3文を参照する。それらのおよその意味は「キッピングの見解とは反対に、私たちは他の惑星に住む知的生物種が、私たち人類に匹敵する技術レベルを達成していると誤って思い込んでいるのかもしれない。それらがテクノシグネチャーを発するような技術を開発するのは何世紀も先のことかもしれない。～、彼らは我々よりも進んでいて、我々がまだ発見していないコミュニケーション手段を使っている可能性もある」である。空所の前後で、技術の発展

段階に関して、正反対の想定が述べられていることがわかる。よって、「対比」を表す語句が必要である。

問 7 「第 4 段落によれば、_____」

正解は、イ「すべての無線信号がテクノロジーの結果ではない」。第 4 段落第 3 文が根拠となる。その 1 文の意味は「自然現象として高速電波バーストを発生させる恒星もあるが、人工的に発生させた電波信号、例えば我々が 1 世紀以上にわたって発生させてきた電波信号は、知的生命体の証拠となるだろう」である。

問 8 「第 5 段落によれば、正しいのは次のうちのどれか」

正解は、イ「他の惑星の生命はすでに生まれては消え去っているかもしれない」。第 5 段落最終 2 文が根拠となる。それらの意味は「私たちが夜空で星を眺めるときはいつも、光が広大な宇宙を移動するのに要する時間のために、私たちが目にしているのは現在の星の姿ではなく、数十、数百、数千年前、あるいは数百万年前の姿なのだ。これでは、ある信号が、人類が地球に出現する前にすでに姿を消していた知的生命体から送られたのかどうかを確認することはできないことになる」である。

問 9 「第 6 段落によれば、_____」

正解は、ア「宇宙の広大さは私たちが生命体を発見する能力を妨げる」。第 6 段落第 1 文が根拠となる。その 1 文の意味は「さらに、知的生命体は宇宙のどこかにいるのかもしれないが、宇宙の広大さは知的生命体を見つけることは想像できないくらい大量の干し草の中から一本の針を探すようなものである」である。これは言い換えれば、知的生命体を含めた生命体を私たちが発見することを阻むということになるので、選択肢アがそれに合致する。

問 10 「第 6 段落によれば、infinitesimal は_____」

正解は、ア「小さい」。下線部(B)を含む 1 文のおよその意味は「それら(電波信号)は少なくとも 75 の惑星系には到達したと推定されるが、これは天の川銀河の規模と比べると～」となる。さらに続く第 6 段落第 4 文の意味は「私たちの電波信号は、光の速度で動いており、私たち自身の銀河のどこかにはかろうじて到達している」となる。barely の「かろうじて～」の意味合いを考えると、銀河の全体には到底及んでいないと考えられ、これらの情報を総合すると、infinitesimal の意味は small と予想できる。実際 infinitesimal は「微小な」の意味である。

問 11 「最終段落によると、_____ということが推定できる」

正解は、エ「新しい方法が、フェルミの逆説の解決を促すには必要とされている」。最終段落の最終文が根拠となる。その 1 文の意味は、「フェルミの逆説を解決するためには、私たちは地球以外の場所で生命体を見つける新しい方法を引き続き編み出す必要がある」である。選択肢エはこの内容と合致するといつてよい。

問 12 「本文のタイトルとして最も適切なものはどれか」

正解は、ア「大きな沈黙：静かな宇宙の神秘」である。第 1 段落には、人間が太古の昔から宇宙に知的生命体が存在するかどうかを問い続けてきたが、まだそのようなものに出会ったことがないという趣旨のことが述べられ、物理学者エンリコ・フェルミの話として、宇宙のどこに人間以外の生命体が存在するのか、私たちはなぜ 1 人であるように思えるのか（地球人以外の生命が存在しないように思えるのはなぜか）という問いが掲げられている。次の第 2 段落では、生命体が息息可能な条件は何か論じられている。宇宙に知的生命体が存在するかどうかについて、その可能性はあるもののまだその答えは出ていない。つまり、この問いに対して答えがまだないという沈黙の状態にあるといえるだろう。他の選択肢について、イは「あまりの多くの星：どのようにして星が生命を生み出すかを理解すること」だが、このようなことは本文からは読み取れない。ウは「私たちは

みな一人である：知的生命体に対する反証」だが、これだと知的生命体は存在しないという趣旨になり、本文の内容とは明らかに異なる。エは「人間の野望：宇宙に電波を送信すること」だが、これを人間の野望ととらえるのは明らかにおかしい。

問 13 「本文に従って、選択肢の文が正しければ“T”を、誤りならば“F”をマークしなさい」

1. 「光の速さが他の惑星に生命がいるかどうかの調査を困難にさせる」
 正解は F。光の速さ (the speed of light) という表現そのものは第 6 段落第 4 文に登場しているが、その 1 文そのものは特に他の惑星に存在するかもしれない生命体を探索する上での困難とは関係がない。光速が話題になっている箇所は、第 5 段落第 4 文であり、その 1 文の意味は「私たちが夜空で星を眺めるときはいつも、光が広大な宇宙を移動するのに要する時間のために、私たちが目にしているのは現在の星の姿ではなく、数十、数百、数千年前、あるいは数百万年前の姿なのだ」である。そして、光の速度で要する時間が膨大であるという前提から導かれる結論が、続く同段落最終文にある「これでは、ある信号が、人類が地球に出現する前にすでに姿を消していた知的生命体から送られたのかどうかを確認することはできないことになる」という発言である。これは「宇宙のどこかに存在するかもしれない知性を備えた生命体を発見することの難しさ」に関わる記述であるが、この難しさの原因は「光速」という速度ではなく、それによってかかる時間、つまり宇宙空間の広大さが原因であるので、この設問内容を正しいと判断することはできない。
2. 「私たちが光の速さで移動しても、最も近い銀河に到達するのに 500 万年かかるだろう」
 正解は F。第 6 段落第 5 文に「私たちの銀河から一番近い銀河であるアンドロメダは 250 万光年離れているので、私たちが他の知的生命体から電波を受信することは決してできないだろう。というのも、1 つの電波を送りそれに対する返事を受信するのに 500 万年かかるからである」とあるが、これは電波の送受信にかかる時間であって、人間が移動するのにかかる時間ではない。したがって誤りである。
3. 「人間のテクノシグネチャーは、現時点では天の川の惑星系に届いたことがあるだけである」
 正解は T。テクノシグネチャーという言葉が使われているのは、第 4 段落であるが、その第 1 文から第 3 文までの意味は「この逆説を解決するには天文学者が探知できる先進的な技術を持つ知的生命体を特定することが必要だろう。テクノシグネチャーとして知られるこれらの技術は、生命体が宇宙から放散する信号であり、それは意図的で体系的なものであるが、自然現象からは生まれにくいものである。星の中には自然現象として高速電波バーストを生み出すものもあるが、私たちが 1 世紀以上にわたって発し続けている電波送信のような人工的に作り出された電波であれば、知的生命体が存在する証拠になるだろう」である。ここからわかることは、人間が生み出す電波もテクノシグネチャーの 1 つであるといえるということである。これをふまえて第 6 段落第 4 文の「人間が発する電波は、光の速さで移動するが、銀河系のどんな場所であれ、かろうじて到達したことがある」を読むと、人間のテクノシグネチャーは銀河系に到達したことがあるということがわかるので、選択肢の内容は正しいと判断できる。
4. 「NASA は銀河系にある惑星の正確な数を知らない」
 正解は T。第 2 段落第 6 文に「NASA によると、天の川の内部にはもしかすると 3 億の惑星系があり、その生息可能帯の中に岩石質の惑星がある」とあることから、NASA が知っている惑星の数がおよその数であって正確な数ではないことがわかる。したがって正しい。potentially は maybe の同義語と考えればよい。

2

問 1 ウ what

空所の直後に it is とあることに注意し、かつ先行詞のないことから「(経済の) 現状」という意味にする。

“~, with the economy being what it is, ...”

「～経済が現状のままでは、...」

問2 エ to realize

直前に only があることから, <only to V> 「しかし, 結局 V した」の形にする。

“~, only to realize that ...”

「~, しかし結局...ということに気づいた」

問3 ウ with

Halley observed 以下が直前の the one (= the telescope) を修飾する関係代名詞節として成立するためには, with (the telescope) とすると「それ(望遠鏡)を使って」となりうまくつながる。the star Aldebaran は同格で「アルデバランという星」。

“~; it's the one Halley observed the star Aldebaran with”

「~; それはハレーがアルデバランという星を観察するのに使ったものだ」

問4 ア informed

まず keep O C 「O を C にしておく」を予想する。次に <inform A of B> 「A に B を知らせる」を変形した <A is informed of B> の A が me となっていると考えるとうまくつながる。エ informative **形容詞** 「知識を与える, 有益な」では, 直後の of が説明できず意味もおかしい。

“Please keep me informed of ~.”

「~を常に知らせてください」

問5 イ most

直後が “Japanese people” なので, 「ほとんどの日本人」という表現になるのはこの場合 most (Japanese people)。“most of” は直後が the Japanese people なら可能。

“~ most Japanese people like sushi.”

「~ほとんどの日本人は寿司が好きだ」

問6 イ no other

後方にある but (ここでは「~以外の」の意) と併せて考えて “no other” を選ぶ。

“~ there is no other choice but to close ...”

「...を停止する以外の選択肢は(他に)ない」 = 「...を停止するしかない」

問7 エ hardly worth attending

一旦 hardly を除いて文を作ると, “it's worth attending this meeting” なら成立する。(ちなみに “this meeting is worth attending” の場合も成立) ここに「弱い not」の hardly を加えると出来上がる。

“~, it's hardly worth attending this meeting.”

「~この会議に出席する価値はほとんどない」

問8 イ have been

now that は接続詞, その節の S は “several of its executives” なので複数形, V は <accuse A of B> 「A (人) を B (こと) で非難する, 訴える」が受動態になったものと考えられる。

“~ now that several of its executives have been accused of unethical conduct.”

「今その会社の数名の役員が, 非倫理的行為によって訴えられているため~」

問9 エ were it not

<if it were not for A> 「A が(今)なければ」という意味になる。これが if 省略の倒置形となっていると考える。

“~ were it not for ...”

「...がいなければ~」

問10 ア it is

選択肢の部分は直前の many people seem to think に対する that 節だが, いずれも反復を回避するための省略が起きている。つまり文頭の SV を代入して考えることになるので, a high price is a guarantee of good quality products となれば, 一般論としてふさわしい。

“~ though many people seem to think it is.”

「値段の高さは良質の製品の保証であると多くの人は考えているようだが~」

3

問 1	ア	<u>adept</u>	「熟達した」	= skillful
問 2	エ	<u>acknowledged</u>	「～を認める」	= admitted
問 3	ウ	<u>put off</u>	「～を延期する」	= postponed
問 4	イ	<u>utterly</u>	「全く、全然」	= wholly
問 5	ア	<u>endeavor</u>	「試み」	= undertaking
問 6	ウ	<u>got along with</u>	「～とうまくやっていく」	= were friendly to
問 7	エ	<u>hit the nail on the head</u>	「核心を突く、正解だ」	= were completely correct
問 8	ウ	<u>apprehension</u>	「不安、懸念」	= dread
問 9	イ	<u>obscure</u>	「曖昧だ」	= unclear
問 10	ウ	<u>deteriorate</u>	「悪化する」	= fall apart

4

- 問 1 イ 「ファンが “a red eye” と言っているが、恐らく彼は_____を意図している」
 2つ目の Juan の発言第 1 文に “Excited to be back after a decade, though I’m a bit jet-lagged.” とあり、ファンが飛行機移動による時差ぼけであることがわかる。また、続く第 2 文に “I caught a red eye and got in at five this morning.” とあり、彼は午前 5 時に到着したことがわかる。よってファンは an overnight flight 夜行便 に乗っていたと読み取れる。
- 問 2 ア 「対話によれば、サヤは_____」
 1つ目の Juan の発言第 5 文に “I can’t believe that we’re all in Vancouver at the same time.” とあり、今 4 人はバンクーバーにいたことがわかる。また、2つ目の Juan の発言第 1 文に “Excited to be back after a decade, though I’m a bit jet-lagged.”, 同最終文に “Saya, I can’t believe you work at the school where we all studied English ten years ago.” とある。つまり、ファンが 10 年ぶりに戻ってきた場所であるバンクーバーは 4 人全員が 10 年前に英語を勉強していた場所だと読み取れる。
- 問 3 ア 「対話によれば、ファンは_____」
 7つ目の Juan の発言第 1 文に “Wow! I should get in touch with her and Martin.” とあり、ファンは、彼女とマーティンと連絡をとることを望んでいることがわかる。ところで、4つ目の Saya の発言最終文および、6つ目の Juan の発言第 2 文に Jenny という名前の女性が登場しているが、この 4つ目の Saya の発言より 7つ目の Juan の発言まで、同じ女性をめぐる話題が進行しているため、ファンが連絡をとりたい女性も Jenny であると読み取れる。
- 問 4 イ 「対話によれば、ウンエとサヤとファンは_____」
 この会話全体から、以前バンクーバーの同じ学校で一緒に英語を勉強していた 3 人が 10 年ぶりに再会した際の会話であることがわかる。イの <catch up with ~> には「再会して近況を話し合う」という意味がある。
- 問 5 ア 「対話によれば、次のどれが正しいか」
 5つ目の William の発言最終文に “Usually, I warm up on my own, but today I felt like I needed to be pushed.” 「いつもは、一人でウォーミングアップをするんだけど、今日は強制されるのを感じたんだ」とあり、ウィリアムはいつもと違って、ウォーミングアップクラスを受けたことが読み取れる。
- 問 6 イ 「レイチェルが “the bane of my existence” と言っているが、恐らく彼女はそれらが_____を意図している」
 問題文中の they 「それら」は、4つ目の Kumi の発言中にある “my pointe shoes” 「私の(バレエダンサーが履く)靴」である。2つ目の Rachel の発言中の “the bane of my existence” を含む部分に続いて、 “but gradually, of course, I got used to the pain.” とあり、 “the bane of my existence” は彼女に苦痛をもたらすものであったことが読み取れる。よって、イの “made her miserable” 「彼女を惨めにした」が正解。ちなみに、bane は「悩みの種」という意味。
- 問 7 ウ 「対話によれば、眠れる森の美女に関して次のうちどれが正しいか」
 1つ目の Kumi の発言第 2 文に “It’ll be great performing *The Sleeping Beauty* with you for the first

time in September!”とあり、クミは9月に初めてウィリアムと眠れる森の美女の出演することを楽しみにしていることがわかる。この内容は、続く2つ目の William の発言にて否定されているものの、3つ目の William の発言第1文に“You’re right.”とあり、ウィリアムは最初のクミの発言内容が正しいことを認めている。よって、ウの「クミはウィリアムと眠れる森の美女に出演したことはない」が正解。

問8 ウ 「対話によれば、クミは_____を行った」

ウィリアムの3つ目の発言の第4文で“You and I did *Swan Lake* right after that.”と述べている。この You はウィリアムの直前に発言をしていたクミのことである。よってウが正解であるとわかる。アはクミの2つ目の発言の第2・3文“The first time I did this was with Max six months ago. He’s such a great dancer; it’s a pity we never got to work together in *Don Quixote*.”の箇所矛盾する。イはクミの最後の発言の第3文“I never felt like I truly mastered it, but I’m determined to be better this time”とあり、今回はもっと上手く演じようと決意しているので、選択肢イのように perfectly に演じたわけではない。エはクミの3つ目の発言に“I’ve been hoping to get the role of Juliet in *Romeo and Juliet*; I’ve never done that before.”とあるが、その後 Juliet 役を演じたとの記述はない。

5

問1 ア 「サイバーセキュリティ」について。冒頭の3で「サイバーセキュリティはコンピュータシステムやネットワークなどを保護すること」である旨が書かれている。2では「サイバーセキュリティの専門家が様々な手段を用いてリスクを軽減する」旨が書かれている。つまり、3の具体例が2に記載されている。次に1の“their efforts”の their は2の“Experts in cybersecurity”を指しており、専門家が努力しているといえども解決策のほんの一部でしかないという内容である。したがって、2→1と続く。そして4で「ユーザーの自覚だけでなく様々な機関との連携が重要になるだろう」と続き、1の内容を補っている。よって3→2→1→4が正解。

問2 ウ 「フラクタル構造」について。冒頭の4では「フラクタルは複雑な幾何学的形態であり、自己相似性を示す」ことが述べられている。1の“This self-similarity”は4のself-similarityを指す。よって4→1の流れが妥当。3の冒頭“Repetition like this”は1の“by repeating a simple process over and over”を差す。よって1→3である。最後に2でこれまでの内容をまとめて“Due to their unique properties and intricate patterns”とつながる。よって4→1→3→2が正解。

問3 ウ 「認知的不協和という現象」について。冒頭の1で「心理学の興味深いトピックの1つに認知的不協和(cognitive dissonance)という現象があり、これは、2つの相反する考えを抱くことで人が心理的な不快感を経験するときに生じる」と認知的不協和についての定義がある。3の“They may also find that their own behavior is in conflict with a belief they hold strongly.”のTheyは1のindividualsを指し、考えだけではなく、自分自身の行動と強く抱いている信念とが衝突する際にも同様の現象が起きるという内容である。よって1→3と続く。4の冒頭“For example”は3の具体例で、タバコが健康に良くないと思っているが、吸い続ける人について述べられている。そして最後の2でそのような不協和を減らすために人はタバコをやめるか、タバコは不健康ではないと決めるか、どちらかの決断をする、と続く。よって1→3→4→2が正解。

問4 ウ 「タンザニアのセレンゲティ国立公園での壮大な現象」について。冒頭の2で「タンザニアのセレンゲティ国立公園は年に一度の壮大な出来事で有名である」旨が書かれている。1の冒頭“In this annual phenomenon”とは2の“a spectacular yearly event”を指す。よって2→1と続く。1の“The Great Migration”という現象は、100万頭以上のワイルドビーストや100万頭のシマウマやガゼルがより緑の多い牧草地へ向かっていく様子のことである。4の

“Predators such as lions and cheetahs follow the herds” の “the herds” とは 1 にあるワイルドビーストやシマウマおよびガゼルの群れである。その群れを追うのであるから 1 → 4 と続く。そして 3 の “Conservation initiatives are essential to protect this unique habitat from threats” の “this unique habitat” とはセレンゲティ国立公園を指し、この場所を守るためには環境保全のイニシアティブが必要である、と締めくくられている。よって 2 → 1 → 4 → 3 が正解。

6

- (1) ア 第 3 文の内容は「図 1 によると、2014 年の金メダルと銀メダルの合計数が最も多かったのはどの種目か」であるので、金メダル 5 個と銀メダル 2 個の合計 7 個を獲得したスピードスケートが正解である。
- (2) イ 第 5 文の「2010 年に X 国のオリンピック委員会は各種目で最低 4 個のメダルを獲得することを目標にし、X 国が 2010 年にこの目標を達成した種目がいくつあるか」を読み取ることがポイントである。図 2 で 2010 年に 4 個以上のメダルを獲得した競技は、カーリング (8 個) とアイスホッケー (4 個) とボブスレー (7 個) の 3 つである。したがって three が正解である。
- (3) ア 第 6 文の「図で示された 5 つの年の中で、スピードスケート、アイスホッケー、ボブスレーのメダル獲得総数が一番少なかったのはいつか」を読み取るのがポイントである。図 2 によると、この 3 つの種目のメダル獲得総数が一番少なかったのは 1998 年で、その数はそれぞれ 1 個である。
- (4) エ 第 7 文の「X 国のスポーツ政策と資金調達が変化したことから、2014 年のフィギュアスケートのメダル獲得総数が 1998 年の獲得総数の何倍になったか」を読み取るのがポイントである。図 2 によると、2014 年は 6 個で 1998 年は 2 個であることがわかる。つまり、2014 年のメダル獲得総数は 1998 年の 3 倍である。したがって triple が正解である。

7

- (1) “So great was the amount of greenhouse gas pumped into the atmosphere by volcanic eruptions that, ~”
 「火山の噴火によって大気中に送り出された温室効果ガスの量が膨大だったので、～」
 <so 形容詞 that ~> 「非常に形容詞なので～」。
 本文では、so great が倒置して文頭に出されている。文の主語は “the amount of greenhouse gas pumped into the atmosphere by volcanic eruptions” で、動詞は was である。“pumped into the atmosphere by volcanic eruptions” は “greenhouse gas” を修飾する形容詞句である。“volcanic eruptions” 「火山の噴火」
 “~ when the seas began to evaporate, it caused a deluge on land.”
 「～海は蒸発し始めたとき、それにより陸地には大洪水が起こった」
 “the seas” は、直訳は「(複数の) 海域」ということになるが、ここでは「海水」や「海」と訳せる。evaporate は「蒸発する」。deluge は「大洪水」。“on land” 「陸地で」。
- (2) “The ancestors of modern amphibians and mammals, being more adaptable, flourished ~”
 「現代の両生類と哺乳動物の祖先は、他の種よりも適応力があつたので、～繁栄した」
 主語は “The ancestors of modern amphibians and mammals” で動詞は flourished である。amphibian は「両生類」。adaptable 「適応力のある、適応できる」。“being more adaptable” は分詞構文で「理由」くらいにとるとよい。flourish 「繁栄する」。
 “~, at the expense of other, less adaptable species after the rain subsided.”
 「降雨が落ち着いた後、他の適応力の低い生物種にとって代わる形で繁栄した」
 <at the expense of ~> 「～を犠牲にして」。other は species を修飾する形容詞。“other, less adaptable species” で「他の、それほど適応力のない生物種」となる。“after the rain subsided” で「雨が落ち着いた後」の意。subside は「鎮静化する、弱まる」。

8

- (1) 「抗菌」 antiseptic / antibacterial / bactericidal / antimicrobial など。
 「抗炎症」 anti-inflammatory / inflammation-reducing / inflammation-suppressing など。
 「鎮痛」 sedative / analgesic / pain-relieving / pain-killing など。
 「効果」 properties / effects など。
 「その島の先住民」 the island's indigenous people / native people on the island / the island's first settlers / the people who originally lived on the island など。
 「伝統医療」 traditional medicine / traditional healing など。
 「～に使われている」 has been used as ~ / has been used in ~ / is employed in ~ / is incorporated in ~ など。
- (2) 「薬草」 medicinal herbs / healing herbs / botanical medicines など。
 「～を経口摂取する」 oral intake of ~ / intake ~ orally / take in ~ by mouth など。
 「事例」 cases / instances / examples
 「長い間知られている」 have long been known / have been known for a long time / have been well known for ages など。
 「外傷」 trauma / external injuries / external wounds / lacerations など。
 「治療する」 heal / treat / remedy など。
 「～の最初の報告例」 the first report of ~ / the first report that S' V' / the first reported case where S' V' など。

講評

- ① [長文内容一致] (標準) 「広大な宇宙に知性をもった生命体が見つからない謎」に関する英文。内容、設問ともに特に難しいところはない。しっかりと得点したい。
- ② [文法四択] (標準) 典型的な出題内容で、しっかりと学習していれば得点しやすい。
- ③ [同義語選択] (やや難) 文意を踏まえた推測によって解答する力も試されている。それら以外は受験知識の範囲内で正解を選べる設問が多い。
- ④ [会話] (標準) 前半は「10年ぶりに再会した同窓生の会話」。後半は「バレエのリハーサルを前にしたコーチとダンサーの会話」。各設問の選択肢は正誤の判断をつけやすいものが多い。
- ⑤ [文整序] (標準) 指示語や代名詞を判断基準にして答えを導き出せる設問が多い。
- ⑥ [図・グラフ] (易) 「冬季五輪のメダル獲得数」に関するデータ読解。特に難しさはない。
- ⑦ [和訳] (やや難) 「地球初期の地質活動による気候変動」に関する英文。構造通り素直に訳せるものの、難しい語が散見される。
- ⑧ [英訳] (やや難) 「薬としての植物の使用」に関する英文。文中に利用できる表現はあるものの、語彙力がないと訳出が難しい箇所が多い。

大問構成、問題量及び難易度のいずれも例年並み。目標は65%

メルマガ無料登録で全教科配信！ 本解答速報の内容に関するお問合せは… メビオ ☎0120-146-156 まで

<p>医学部進学予備校 メビオ</p> <p>☎0120-146-156 https://www.mebio.co.jp/</p>	 医学部専門予備校 YMS 英進館メビオ 福岡校	<p>☎03-3370-0410 https://yms.ne.jp/</p> <p>☎0120-192-215 https://www.mebio-eishinkan.com/</p>	 登録はこちらから
---	---	---	---

諦めない受験生をメビオは応援します！

医学部後期入試 ガイダンス

2/11 (火・祝)

14:00～14:30 医学部進学予備校メビオ校舎

詳細やお申込はこちらから 

私立医学部 大学別後期模試

2/13	近畿大学医学部	詳細やお申込はこちらから 
2/19	金沢医科大学	
2/20	昭和大学医学部	
2/23	聖マリアンナ医科大学	

医学部進学予備校 **メビオ** フリーダイヤル ☎0120-146-156

校舎にて個別説明会も随時開催しています。
【受付時間】9:00～21:00 (土日祝可)

大阪府大阪市中央区石町 2-3-12 ベルヴォア天満橋
天満橋駅(京阪/大阪メトロ谷町線)より徒歩3分